

◇中2社会「地形図から、地域的特色を読み取る」問題 → 2 (3) 県48.9%、南部管内48.9%

2 花子さんは、家族旅行で行く山梨県韮崎市を調べるために2万5千分の1の地形図を入手しました。これをみて、あとの問いに答えなさい。

国土地理院発行の韮崎市周辺の地形図 2万5千分の1 (略)

(3) 花子さんは、自由研究としてこの地図に示された地域で課題をたてて調べようと思いました。課題として適切でないものを、次の1～4の中から1つ選び、その記号を書きなさい。

- 1 この地域はどのような津波対策をおこなっているのか。
- 2 中央自動車道ができて、地域はどのように変わったのか。
- 3 土地利用として果樹園や桑畑が多いのはなぜか。
- 4 「武田」という地名は、武田信玄と関係があるのか。

◆指導上の改善ポイント

正答は、1である。問題文や地名から地形図で描かれている場所は、山梨県であることがわかる。選択肢1の「津波」は海に面した地域でのみ起こりうる自然災害であることから、正解を導き出すことができる。

地理的分野の学習を進めるにあたり、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、事象間の関連を追求したり説明したりするなどの学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養うことが重要である。

中学校社会科地理的分野においては、生徒による主体的な学習としての探求学習能力の育成がその学習目的として重視されている。特に「身近な地域の調査」の単元は、既習知識、概念や技能を生かすとともに、地域の課題をみだし考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究型学習を地理的分野の学習のまとめとしておこなうことが期待される。

1 学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能の習得

47都道府県の名称と位置や、地図・グラフ・表・写真等の資料を活用する能力等、基礎的・基本的な知識、技能は小学校段階から継続的に育成していく必要がある。学校間・学年間等、反復(スパイラル)学習の機会を設けることで、効果的に習得するよう継続的に指導する必要がある。

2 地図の活用に関する技能の系統的な育成

地図の読図や作図は、地理的事象の理解だけでなく、地理的な見方や考え方をはぐくむ上で必要不可欠な能力である。ここではどのような地理的事象が見られるのか、この地理的事象がなぜこの地域に見られるのか等、地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追究しとらえたりする技能を身に付けることを段階的に指導することが重要である。

3 地理的な見方・考え方の育成の一層の重視

地理的な見方や考え方は、地理的分野の学習の全般を通じて培うものである。系統性に留意して計画的に指導することが必要である。「身近な地域の調査」の単元では、地域の単なる地誌的知識の習得に終始することなく、野外での観察や調査などの活動を通して、地域的特色をとらえたり地域の課題を見いだしたり考えたりする学習を通して、地理的な見方や考え方を成長させることが求められる。

★地理的な見方や考え方を育成するための視点例

- 視点1 この地域にはどのような地域的特色をもっているのか。
- 視点2 この地域でそうした地域的特色がみられるのはなぜか。また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか。

※参考:「地理的な見方や考え方」については、「学習指導要領解説」P20～21に具体的に示されている。

社会

平成22年度埼玉県小・中学校学習状況調査において、県と南部管内の正答率(%)の差が大きい問題

◇中2社会「縮尺の意味を理解し、実際の距離を求める」問題 → 県32.2% 南部管内30.6% (-1.6%)

- 2 花子さんは、家族旅行で行く山梨県韮崎市を調べるために2万5千分の1の地形図を入手しました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

国土地理院発行の韮崎市周辺の地形図 2万5千分の1 (略)

- (2) 花子さんは、「いらさき」駅から「韮崎中央公園」までどのくらい距離があるのか調べるために、地形図上で測ってみると6cmありました。実際の距離が何mなのか求めるため、次のア、イにあてはまる数字を書きなさい。

まず、縮尺を考えて、6cmを 倍します。

この結果の単位をcmからmに直すと、求める距離は mとなります。

◆指導上の改善ポイント

正答は、ア 25000、イ 1500である。地形図の学習では、「方位」「等高線」「縮尺」「地図記号」などについてその意味を理解するだけでなく、計算したり読み取ったりするなど活用できる技能を身に付けさせることが必要である。

1 体験的、作業的な学習を通して生徒が生活している地域に対する理解と関心を深める指導

①生徒の行動圏や生活圏・学校区の地形図を活用し、実際にその地域で学習したり、生活と結びつけたりすることで、実感をともなった理解を促し、空間的な認識力を高めること。

②フィールドワークなどの野外での観察や調査の活動を通して、体験的に理解を図ること。

※野外での活動を補うものとして、現地の写真・ビデオ映像、航空写真、インターネット（グーグルアースやストリートビュー）などを活用することも有効である。

③校外学習等の学校行事でも活用するなど地図指導の日常化を図ること。

2 反復して継続的に技能の定着を図る指導

①年間指導計画への位置付け、3年間を通して確実に定着するように継続的に指導すること。

②つまづきの原因を解明し、個々の生徒に応じた指導を工夫すること。

★指導の具体例（基礎）

課題1 地図で自分の家と学校を探し、印をつけよう。

課題2 自分の家と学校までの実際の距離は直線は何m (km) ですか。

①この地形図の縮尺はいくらか？ —— 最初に地図の縮尺を確認する

②地形図上の1cmは実際は何cmになるか？ $25,000分の1 \rightarrow 25,000\text{cm}$

③家から学校は地図上では何cmになるか？ $50,000分の1 \rightarrow 50,000\text{cm}$

④家から学校は実際は何cmになるか？ —— 地図上の長さ (cm) \times 縮尺の分母 = 実際の距離 (cm)

⑤家から学校は実際は何mになるか？ —— 単位の変換 (cm) \rightarrow (m \cdot km)

★指導の具体例（応用）

課題1 場所（距離）を変えて計算する。

課題2 縮尺を変えて計算する。

課題3 実際の距離から地図上の長さを求める。

